

【プロジェクト名】 「教職実践演習」の実施と教員養成カリキュラムの見直し**1 プロジェクトの目的・概要**

「教職実践演習」は教職課程修了時に、形成された教師として必要な基礎的資質の形成について評価・確認するための授業科目である。教職課程履修の全学生を対象として、平成 25 年度後学期から必修科目として開講している。開講を通じて、教職課程履修学生の到達度としての、教師としての基礎的資質形成について明らかにするとともに、その結果をフィードバックすることによって、大学における教員養成のカリキュラム全体の見直しへの発展がなされ、全学的な教員養成の水準の向上や、地域の学校教育の質的向上にも貢献するよう目論まれている。

また、「教職実践演習」では佐賀県教育委員会から指導者の派遣を得るとともに、佐賀市内中学校においても実務演習を実施している。これらの点で、地域のなかで地域とともに教員を養成する具体的な取り組みとなっているので、「教師の養成・採用・研修の一体化」に向けた 1 つのステップとなることも企図されている。

2 平成 30 年度の実施実績

(成果) 昨年度に続き、担当者への入れ替えを行うとともに、9 月 27・28 日の 2 回（同内容）、担当者向けの事前説明会を行ない、実施内容・方法の周知徹底と円滑かつ実質を伴った演習実施への協力を依頼した。その際、テキスト中の記載について指導主事の方よりご指摘があり、修正検討に入っている。また、次年度の実施担当者の決定を早められないかとの要望が複数あったことから、年度末に教務課より必要資料を提供頂き、開講クラス数や複数教科のグルーピングなどの検討に入った。

提出された小レポートでは、本演習の支援にあたられた指導主事の先生方からの貴重な示唆や、実務演習で新たな気づきを得たとの記述が多数あった。

3 令和元年度の実施計画

小学校での実務演習の実施形態についての検討を、引き続き行わなくてはならない。また、欠席者への代替措置のあり方について具体的に検討し、周知を図る必要がある。さらに、昨年度末に発生した、教職実践演習の成績評価をめぐるトラブルを受け、成績評価の基準のあり方についても検討を求められている。

幼稚園教諭を想定したテキスト内容への改訂（内容追加など）作業については、昨年度中に九州管内の他大学からも関連情報を得るなど、対応を進めてきた。しかし、テキスト内容が一貫性を持った構成となっていることから、部分的改訂についてはいったん保留とし、授業担当者との共通理解、実務演習等の円滑な実施や、実施規定の検討に注力することとする。